

各 農 業 改 良 普 及 セ ン タ ー 所 長 様
各 農 業 協 同 組 合 長 (営 農 担 当 者) 様
各 病 害 虫 調 査 協 力 員 様
各 農 業 関 係 機 関 長 ・ 団 体 長 様

京 都 府 病 害 虫 防 除 所 長
(公 印 省 略)

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て

下 記 の と お り 発 表 し ま し た の で 送 付 し ま す 。

病 害 虫 発 生 予 報 第 8 号 (1 0 月)

予 報 の 概 要

作 物 名	病 害 虫 名	予 想 発 生 量 < 平 年 比 (前 年 比) >
ダ イ ズ ・ ア ズ キ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ ハ ダ ニ 類 吸 実 性 カ メ ム シ 類 (ダ イ ズ)	<u>や や 多</u> (多) <u>や や 多</u> 並 ~ <u>や や 多</u>
チ ャ	チ ャ ノ コ カ ク モ ン ハ マ キ チ ャ ノ ホ ソ ガ カ ン ザ ワ ハ ダ ニ	発 生 量 : 山 城 <u>多</u> (並) : 丹 波 <u>や や 少</u> (少) 発 生 時 期 (幼 虫 化 期) 1 0 月 2 半 旬 ~ 1 0 月 4 半 旬 (並) 発 生 量 : 山 城 並 (<u>や や 少</u>) : 丹 波 <u>や や 少</u> (並) 発 生 量 : <u>や や 多</u> (山 城 <u>や や 少</u>) (丹 波 <u>や や 多</u>)
野 菜	べ と 病 、 黒 斑 病 、 白 斑 病 (ア ブ ラ ナ 科 野 菜) 菌 核 病 (キ ャ ベ ツ) 黒 腐 病 、 黒 斑 細 菌 病 (ア ブ ラ ナ 科 野 菜) コ ナ ガ (ア ブ ラ ナ 科 野 菜) ハ ス モ ン ヨ ト ウ (野 菜 全 般) シ ロ オ ビ ノ メ イ ガ (ホ ウ レ ン ソ ウ) ハ モ グ リ バ エ 類 (野 菜 全 般) タ バ コ ガ 類 (野 菜 全 般)	並 (<u>や や 少</u>) 並 (並) 並 (並) 並 (<u>や や 多</u>) <u>や や 多</u> (多) <u>や や 少</u> (少) 並 ~ <u>や や 多</u> (並) <u>や や 少</u> (<u>や や 少</u>)

平 年 と は 過 去 1 0 年 の 平 均 で あ る 。

用語の定義

1 半旬のとり方

	第1半旬	第2半旬	第3半旬	第4半旬	第5半旬	第6半旬
各月の	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～最終
	日	日	日	日	日	日

- 2 発生量 - - - 病虫害の発生程度と広がり両面を加味したものをいう。
- 3 発生及び被害等の程度 - - - 程度は甚、多、中、少、無の5段階に分ける。
それぞれの病虫害の基準については各作物の項参照。

- 4 平年値 - - - 原則として過去10か年の平均とする。
データが10年に満たない場合は例年値とする。

5 平年値との比較

1) 時期

平年並	平年値を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
やや遅い	平年値より3～5日遅い
早い	平年値より6日以上早い
遅い	平年値より6日以上遅い

2) 量(発生量、発生面積等)

平年並	平年値並の発生で10年間に4回は発生する程度の普通の量
やや多い	「平年並」より発生が多く、10年間に2回程度の頻度で発生する量
やや少ない	「平年並」より発生が少なく、10年間に2回程度の頻度で発生する量
多い	「やや多い」より多く、10年間に1回程度しか発生しない量
少ない	「やや少ない」より少なく、10年間に1回程度しか発生しない量

- 農薬の使用にあたっては使用基準を遵守すること -

近畿地方 1 か月予報

(9 月 2 3 日から 1 0 月 2 2 日までの天候見通し)

平成 1 8 年 9 月 2 2 日
大阪管区气象台 発表

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう 1 か月の気温は平年並または高いでしょう。降水量と日照時間は共に平年並の見込みです。

週別の気温は、1 週目と 2 週目は共に平年並、3 ~ 4 週目は平年並または高いでしょう。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

		低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温		2 0	4 0	4 0
降 水 量	近 畿 地 方	3 0	4 0	3 0
日 照 時 間		3 0	4 0	3 0

お知らせ

残留農薬基準等のポジティブリスト制度導入に伴う農薬適正使用の徹底について

平成 1 8 年 5 月 29 日より食品衛生法に基づくポジティブリスト制度が導入され、いままで残留基準値が定められていなかった農薬成分と農作物の組み合わせにも、新たに国際基準等を参考として暫定的な基準値が設定されるとともに、参考となる基準がない場合には一律基準 (人の健康を損なうおそれのない量 ; 0.01ppm) が適用され、基準値を超えて農薬が残留する食品 (農産物等) の流通が禁止となりました。

このため、農薬の適正使用はもちろんのこと、周りの圃場の作物へ農薬が飛散 (ドリフト) しないように十分注意してください。

予報本文

ダイズ・アズキ

1 ハスモンヨトウ

予報内容 発生量： 平年比やや多い（前年比多い）

予報の根拠

- （ 1 ） 9 月中旬現在、発生量は平年並～やや多い（ + ）。
- （ 2 ） 9 月第 4 半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は亀岡市で平年比多く（ + ）、京丹後市で平年並。
- （ 3 ） 1 0 月の気温は平年並または高く（ + ）、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （ 1 ） 齢が進んだ幼虫は周囲に分散し、かつ、薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が重要である。

2 ハダニ類

予報内容 発生量： 平年比やや多い

予報の根拠

- （ 1 ） 9 月中旬現在、発生量は平年並。
- （ 2 ） 1 0 月の気温は平年並または高く（ + ）、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （ 1 ） 晴天が続くと多発しやすいので注意する。

3 吸蜜性カメムシ類（ダイズ）

予報内容 発生量： 平年並～やや多い

予報の根拠

- （ 1 ） 9 月中旬現在、黒ダイズでの発生量は平年比やや少ない（ - ）。
- （ 2 ） 9 月中旬現在、一部で発生の多いほ場が認められる（ + ）。
- （ 3 ） 9 月第 4 半旬現在、予察灯への飛来数は平年並。
- （ 4 ） 1 0 月の気温は平年並または高く（ + ）、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （ 1 ） 莢が黄変する時期まで吸汁を続け、ほ場周辺に雑草地など発生しやすい場所があると、被害を受けやすい。

チャ

1 チャノコカクモンハマキ

予報内容 発生量： 山城 平年比多い（前年並）

丹波 平年比やや少ない（前年比少ない）

発生時期： 第 4 世代幼虫ふ化期

1 0 月第 2 半旬～ 1 0 月第 4 半旬（平年並）

予報の根拠

- (1) 9 月中旬現在、発生量は山城で平年比多く (+)、丹波で平年比やや少ない (-)。
- (2) 9 月第 4 半旬現在、フェロモントラップへの誘殺盛期は平年並。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 通常、第 4 世代幼虫が、綴った葉の中で越冬して翌春の発生源となる。
- (2) ふ化した幼虫は葉を綴って食害するようになるため、薬剤がかかりにくいので注意する。

2 チャノホソガ

予報内容 発生量：山城 平年並 (前年比やや少ない)
丹波 平年比やや少ない (前年並)

予報の根拠

- (1) 9 月中旬現在、発生量は山城で平年並、丹波で平年比やや少ない (-)。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 特に自然仕立て園では園をよく見回り、発生を認めたら直ちに防除し、越冬密度を下げるようにする。
- (2) 被害葉はチャノキイロアザミウマやカンザワハダニの発生源になるので注意する。

3 カンザワハダニ

予報内容 発生量：平年比やや多い (山城：前年比やや少ない)
(丹波：前年比やや多い)

予報の根拠

- (1) 9 月中旬現在、発生量は平年比やや多い (+)。
- (2) 10 月の気温は平年並または高く (+)、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 気温が低下するとすそ葉に移動して越冬し、翌春の発生源となる。
- (2) 翌春の一番茶期の発生を抑えるには、越冬前の防除が有効である。11 月中に防除する。

野菜

1 ベと病、黒斑病、白斑病 (アブラナ科野菜)

予報内容 発生量：平年並 (前年比やや少ない)

予報の根拠

- (1) 9 月中旬現在、カブで発生を認めている。
- (2) 10 月の気温は平年並または高く (-)、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 肥切れは発病を助長するので、肥培管理に注意する。
- (2) 結球開始期以降、気温が低く曇雨天が続くと発生しやすい。

2 菌核病（キャベツ）

予報内容 発生量：平年並（前年並）

予報の根拠

- （１）春期の発生は、平年比やや多かった（＋）。
- （２）９月中旬現在、発生を認めていない。
- （３）１０月の気温は平年並または高く（－）、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）適温は２０前後、曇雨天が続いた時に発生しやすくなる。
- （２）発生終期に菌核が形成され土中に落ち、次の伝染源となる。菌核は土壤中で２～３年間生き残る。

3 黒腐病（キャベツ等）・黒斑細菌病（アブラナ科野菜）

予報内容 発生量：平年並（前年並）

予報の根拠

- （１）９月中旬現在、発生を認めていない。
- （２）１０月の気温は平年並または高く、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）害虫の食痕や風雨による傷口等は細菌の侵入を容易にし、発病を助長する。
- （２）降雨日数と発生量との相関が高い。

4 コナガ（アブラナ科野菜）

予報内容 発生量：平年並（前年比やや多い）

予報の根拠

- （１）９月中旬現在、発生量は平年並。
- （２）９月第４半旬現在、予察灯への飛来数は平年並。
- （３）９月第４半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は平年並。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）雨よけ栽培の場合、降雨に関係なく急速に増殖することがある。
- （２）被覆資材などを利用し、物理的防除に努める。

5 ハスモンヨトウ（野菜全般）

予報内容 発生量：平年比やや多い（前年比多い）

予報の根拠

- （１）９月中旬現在、各種作物で発生を認めている。
- （２）９月第４半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は亀岡市で平年比多く（＋）、京田辺市で平年比やや多く（＋）、京丹後市で平年並。
- （３）１０月の気温は平年並または高く（＋）、降水量は平年並と予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）齢が進むと薬剤の効力が低下するので、早期発見に努め、若齢期に防除する。

6 シロオビノメイガ（ハウレンソウ）

予報内容 発生量：平年比やや少ない（前年比少ない）

予報の根拠

(1) 9 月第 4 半旬現在、予察灯への飛来数は平年比やや少ない(-)。

発生生態及び防除上注意すべき事項

(1) 雨よけ栽培の場合、降雨に関係なく急速に増殖することがある。

(2) 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に留意する。

7 ハモグリバエ類(野菜全般)

予報内容 発生量：平年並～やや多い(前年並)

予報の根拠

(1) 9 月中旬現在、発生量は平年並～やや多い(+)。

発生生態及び防除上注意すべき事項

(1) シュンギク、コマツナ等軟弱野菜は、被覆資材を用いた物理的防除に努める。

(2) 幼虫は葉の中に潜り込み食害するが、その期間は 3 日程度と非常に短いので、薬剤を散布する場合は、発生確認後、速やかに行い防除時期を逸しないようにする。

8 タバコガ類[オオタバコガ、タバコガ](野菜全般)

予報内容 発生量：平年比やや少ない(前年比やや少ない)

予報の根拠

(1) 9 月中旬現在、発生を認めている。

(2) 9 月第 4 半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は平年比やや少ない(-)。

発生生態及び防除上注意すべき事項

(1) 発生すると被害が大きいため、早期発見に努める。

(2) 幼虫の食入果実は処分する。

9 ハイマダラノメイガ(アブラナ科野菜)

生育初期に加害されると大きな被害になるので注意する。

発生生態及び防除上注意すべき事項

(1) 初発生に特に気をつける。

(2) は種直後から寒冷紗等で被覆を行い、産卵を防ぐ。

10 トマト黄化葉巻病

トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV: Tomato Yellow Leaf Curl Virus)の感染により引き起こされる病気である。昨年 1 2 月に府南部のハウス栽培トマトで発生が確認された。

本年 9 月にトマト抑制栽培の一部で発生が確認された。今後とも注意が必要である。

発生生態及び防除上注意すべき事項

(1) タバココナジラミ類を介して伝染するので、発生状況に注意する。

(2) 苗を購入する時は、コナジラミ類が寄生していないか、先端部の葉が黄色くなって表側が巻いていないかを確認し、健全な苗を植え付ける。

(3) 発病した株については抜き取り、袋に入れて密封して枯死させるか土中に埋めて処分する。

(4) 野良ばえトマトも重要な伝染源となるので、自生したトマトは除去する。

- (5) 開口部 (サイド、出入口、天窗等) すべてを 0 . 4 m m 目合いの防虫ネット
トで被覆する。出入口は 2 重に被覆する。
- (6) 黄色粘着ロールをハウス周囲及び開口部に展張する。
- (7) 近紫外線カットフィルムを使用する。
- (8) コナジラミ類に対する発生初期の防除を徹底する。薬剤で防除する場合は、
葉裏までていねいに散布する。
- (9) 同一系統の薬剤の連用は薬剤感受性の低下につながるため、ローテーション
防除を実施する。
- (10) 天敵や微生物農薬を有効利用する。
- (11) ラノーテープを使用する場合は、定植直後から使用する。
- (12) 黄色粘着板を吊り下げて、コナジラミの発生を把握する。

1 1 タバココナジラミ類

タバココナジラミ類は世界中に分布し、多くのバイオタイプ (形態的な区別が
難しく、遺伝的、生物学的に異なる系統) が存在する。国内では在来系統 (バイ
オタイプ不明)、バイオタイプ B (従来 of シルバーリーフコナジラミ)、バイオ
タイプ Q が確認されている。

農業総合研究所と病害虫防除所が行ったコナジラミ類分布調査では、タバココ
ナジラミ類は亀岡市以南の地域に生息していることが分かった。また、今年に入
って、バイオタイプ Q が府内で初めて確認された。

タバココナジラミ類は、従来から薬剤感受性が低く難防除害虫といわれており、
総合的な防除対策 (トマト黄化葉巻病参照のこと) が必要である。

4 月 2 7 日付特殊報第 1 号を参照のこと。

病害虫防除については、病害虫防除所・最寄りの農業改良普及センター又は
農協にご相談ください。

また、調査結果については防除所 F A X サービス (0771-23-6539) をご利用
下さい。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホ - ムペ - ジの「農薬コ - ナ - 」をご覧下さい。
ホームページアドレス <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

農業改良普及センター 電話番号一覧

・京都乙訓	農業改良普及センター	075 - 315 - 2906
・山城北	農業改良普及センター	0774 - 62 - 8686
・山城南	農業改良普及センター	0774 - 72 - 0237
・南丹	農業改良普及センター	0771 - 62 - 0665
・中丹東	農業改良普及センター	0773 - 42 - 2255
・中丹西	農業改良普及センター	0773 - 22 - 4901
・丹後	農業改良普及センター	0772 - 62 - 4308

農作物病虫害情報サービス

- ・テレホンサービス
0771 - 23 - 6442
- ・FAXサービス
0771 - 23 - 6539
- ・ホームページアドレス
<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/>

京都府病虫害防除所

〒621-0806京都府亀岡市余部町和久成9

TEL 0771-23-9512

FAX 0771-23-9513